



迎春



水道管の凍りたく、氷点下四度以下は注意

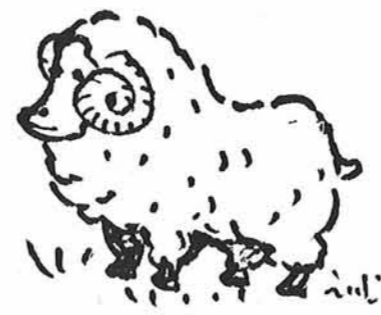
水道管の「凍りたく」はできていますか。
気温が摂氏マイナス四度以下になると水道の水が凍ったり、水道管が破裂したりします。
とくに水道管が次のような場所にあるときは、防寒に十分注意しましょう。
▼屋外にあって、むき出しになっている場合
▼日照時間の短いところにある場合
▼風当りの強いところにある場合
このようなところにある水道管は早目に「防寒策」を講じてください。
簡単にできる水道管の「凍結・破裂防止法」は次の通りです。
手近にある布やなわ、こもなどを露出している水道管に巻きつけて保温します。さらに、この上からビニールやテープなどを巻きま



す。これは、布などの「防寒材」がぬれますと、それらが、凍って、かえって水道管を破裂させる結果となるからです。
破裂してしまつては、たくさん水がムダになる上、修理代もばかになりません。水道管には温かい思いやりを。
水道管が凍りついたり、破裂したときの応急処置は、次のようにしてください。
「凍って水が出ないとき」
凍つたと思われる水道管の露出した部分に布やタオルを巻きつけてその上から、少しずつ熱湯をかけて下さい。凍つたのがとけて、水が出てきます。ただし、熱湯を急にかけてください。水道管

が破裂することがあるからです。
まず、元の止水栓をとめてください。止水栓がわからなかったり、止められないときは、破裂した部分に布やテープなどを巻きつけてとにかく水を止めるようにしましょう。その上で、水道課や水道課指定の工事に連絡して、修理を申し込んでください。
【破裂したとき】
まず、元の止水栓をとめてください。止水栓がわからなかったり、止められないときは、破裂した部分に布やテープなどを巻きつけてとにかく水を止めるようにしましょう。その上で、水道課や水道課指定の工事に連絡して、修理を申し込んでください。
業縮のまひつじ年を迎えました。このひつじ年、実は日本の羊毛工業百年の記念すべき年なのです。というのも、明治十二年、陸軍が東京・千住に毛織物の製造所を設け軍服を作つたのが日本の毛織りの始まりとか。
——ヒツジ年の正月、ゾウ煮はやめてジンギスカン焼きで祝いませうか。その方が、ヤングに受けそうだし。

今年ひつじ年



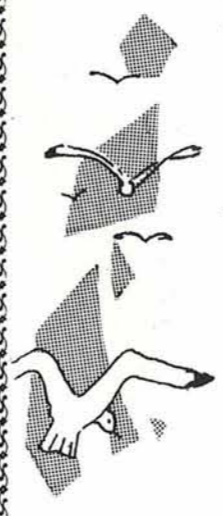
血液型の話

A型……おとなしくて正直でものことに感動しやすい。
B型……活動的で社交的なタイプが多い。
AB型……A型とB型の性質を共にもっているタイプか、またはそのいずれかの片方に近い性格をもっている。
O型……自分の主張を通す自信の強いタイプの人が多いそうです。血液型は遺伝の法則にしたがっていますから、両親の血液型によつて、その子供の血液型を知ることができます。

父 O型	母 O型	父 O型	母 O型
子 O型	子 O型	子 A型	子 A型
父 O型	母 O型	父 O型	母 A型
子 O型	子 O型	子 O型	子 B型
父 B型	母 B型	父 A型	母 A型
子 AB型	子 AB型	子 A型	子 B型

車酔い(舟酔い)の手当

●ふだんから胃腸を健全にして、便通をととのえておくことです。
●車や船の中の揺れの少ない中央部に席をとるようにします。
●窓を開けて新鮮な空気にふれていると酔い方がひどくありません。
●軽い遊びや読物などで気をまぎらせたりして気分の転換をはかります。
●空腹すぎたり満腹すぎるとはいけません。消化しやすいものを適当に食べておくことが必要です。
●冷水やひやお茶などときどきうがいをして、口の中をねばらせないようにしておきます。
●パルピタール等の車酔い薬を乗車する三〇分くらい前にのんでおくとうきまします。



年頭のご挨拶



寺泊町長
中島 甚一郎

あけましておめでとうございます。
今年もよい年でありますよう皆様のご清祥をお祈り申し上げます。

この新春は町長就任はじめてのご挨拶でありますので、威勢のよいことを元気いっぱい申し上げてみたいのですが、責任をもって行政の推進をはからねばならないため各般にわたる飛躍発展策を考えながらも、よいことづくめのみのわけにはまいりませんので、なんとしてもやらねばならない**教育の振興、福祉の推進、産業の発展**、そして**公共事業（道路の改良、舗装、港の整備等）**は積極的にこれを実施いたします。

幸いに先輩方々が永年にわたりご努力を重ねてくださったことにより、**高校分校移築の件、主要な道路の改良等々**について今年は大変明るい見通しとなりました。しかしながら時代の推移は学校教育、児童福祉などについて地域的には将来見通しにたつて慎重に検討をしなければならぬ大きな課題ともなり、懸案の水道事業の改良対策等とともに具体的にこれから解決に取り組みねばならないと思っております。
さらに皆様の健康増進は最も重要なことであり、環境整備、体力づくりの推進に一層意をもちい、併せて魅力ある町づくりについての**将来計画策定**は多数の方々のご意見を求め、ご知恵を拝聴しながら進めていきます。
そして、先輩諸氏のご教示と若い諸君の活力に大きな期待をよせながら「**躍進の町**とらどまり」を目標に頑張りたいものと希って年頭のご挨拶といたします。

十二月定例議会

補正予算 などを審議

二路線が町道 として認定 される

十二月定例町議会は、十二月十二日から会期五日間で開催され、十二月十六日をもって全日程を終了いたしました。

今議会では、町長提出議案九件請願三件、陳情三件が審議されました。
このうちおもなものとしては、一般会計補正予算、議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正、職員給与に関する条例の一部改正、学校設置条例の一部改正町道路線の認定、などであり、このうち陳情にたいする、元号法制化実現要求の議会決議が委員会

付託となり継続審査となりました。その他はいずれも原案どおり可決されました。

今回の一般会計補正予算は、人事院勧告にもとずいて行なわれた人件費の差額分が主で、その他として水田利用再編対策特別交付金等があります。

学校設置条例の一部改正は、夏戸小学校の改築移転に関連した住所の変更です。

町道路線の認定は、大津分水の提防左側で蛇塚から新長までの、路線と、もうひとつは、夏戸から大和田までの農面道路で、この二路線が、新たに町道として認定されました。



新たに町道として認定された農面道路（夏戸、大和田線）



除雪は…

町民みんなの
協力で

国民の祝日

元	成人の日	1月1日
建	建国記念の日	2月11日
春	春分の日	3月21日
天	天皇誕生日	4月29日
憲	憲法記念日	5月3日
こ	こどもの日	5月5日
敬	敬老の日	9月15日
秋	秋分の日	9月24日
体	体育の日	10月10日
文	文化の日	11月3日
勤	勤労感謝の日	11月23日

節

小	小寒	1月6日
大	大寒	1月21日
立	立春	2月4日
雨	雨水	2月19日
啓	春分	3月21日
春	清明	4月5日
清	立夏	4月21日
穀	芒種	5月6日
小	夏至	5月22日
芒	夏至	6月6日
夏	夏至	6月22日
小	小暑	7月7日
大	大暑	7月23日
立	立秋	8月8日
白	白露	8月24日
秋	秋分	9月24日
寒	寒露	9月8日
霜	霜降	9月24日
立	立冬	10月8日
小	小雪	11月23日
大	大雪	12月7日
冬	冬至	12月22日



消防署とコロニーの 合同消防訓練

午前九時〇〇分。
一九九番、専用の電話のベルが
けたたましくなる。
コロニー白岩の里で、「火災発生
の報」。

ピーンと張りつめる署員。
煙が室内に充満している。
職員が室に閉じこめられ脱出でき
ない。……等の情報が入る。
矢つぎ早に指令を出す班長。
「出動」の号令。

ポンプ車、救急車、指令車が勢い
よく出動して行く。
午前九時一分五十分
現場到着

「入所生を安全な所へ避難させ
ろ」。「消火栓は」。「空気呼吸器の
用意」。

すさまじい勢いで走る隊員
これは、先月の六日に行なわれ
たコロニーと消防署による合同訓
練の一場面です。

この日の合同訓練は、火災発生
の危険性が多い身体障害者施設か
ら一人でも事故者を出さないため
と、コロニー職員がいざ「火災」



おっかな、びっくり、消火訓練をしている女子職員

となると自分がわからなくなつて
しまい、「自分は何をするのか」「何
をした方がいいのか」などの判断力
と行動力を身につけるために行な
われたものです。

事前の打合せがあつたとはいえ
緊張した顔で、テキパキ、と入所
生を避難させている職員は、
とても訓練とは思われない緊張感
がみなぎっていました。
又、訓練終了後、一人でも多く
消火器の「知識」と「使用方法」を
身につけてもらうため、女子職員
による消火訓練が行なわれ、職員
一同、火災に対する知識を深め、
今後の消防活動に大きな期待をよ
せていました。

冬の道路

知っておきたい

氷雪路での運転チエツク

急ブレーキは、普通の道路でも、
しばしば事故につながります。ま
して、すべりやすい氷雪路は、ど
こもかしこも危険がいっぱいです。
氷雪路を走るときは、次の点を忘
れないように――。

- ▼スノー・タイヤ、スパイク・タ
イヤ、チェーン付きタイヤは、雪
質、積雪量、氷結の状態でそれぞ
れタイヤの特性が違います。条件
に合ったタイヤを選びましょう。
- ▼トラックやライトバンで荷物を
積み場合、重さの配分、とくに左
右のバランスに注意しましょう。
- ▼整備不良によるブレーキの片効
きが起こらないように、事前に調
整しておきましょう。
- ▼タイヤの空気圧も、左右均一に
しておきましょう。
- ▼車間距離を十分に。
- ▼急ブレーキは絶対にかけないこ
と。
- ▼ブレーキを踏む場合は、小さざ
みに。
- ▼歩行者や自転車などのそばを通
るときは十分注意し、最低一メー
トル以上離れて通過しましょう。
- ▼止まるときは十分余裕をみて減
速し、早めにブレーキングを始め
ましょう。



大河津分水

(その1)

大河津分水は米どころ新潟県
の忘れることのできない存在価
値を有する大事業です。信濃川
沿岸市町村の受ける恩恵は大き
いものです。とりわけ、われら
の町寺泊は分水路に当るため、
直接間接に影響するところ誠に
深いものがあります。その関係
について、そぞろ歩きつもり
でふれてみたいと思います。

大河津分水工事は明治四十二
年寺泊町白岩で起工式をあげ大
正十一年に完工通水しました。
完工から今日まで五十七年を経
たことになりました。この期間に
町は大きく変化いたしました。

- 第一に海岸線が海へ前進し
- 第二に陸地がどんどん造成され
- 第三に漁業が変化し
- 第四に観光地として脚光を浴び
- 第五に港湾整備が進められ
- 第六に田圃の耕地整備ができ
- 第七に灌漑用排水路が整備され

第一と二の海岸線の前進と陸
地の造成ですが、これは大河津

分水が運んでくる土砂によるもの
です。

流れるとも見えぬ水量の平水時
や濁水期の夏、飲料水の不足が心
配される時には土砂の運搬とは関
係ないのですが、雨期となり長雨
や豪雨となると独流滔々として渦
巻く河水が土砂を運んでまいりま
す。冬の季節風である西風や北西
風によって荒れ狂う日本海の波が
海岸をえぐり取り欠壊する土の量
よりも分水が運んでくる土砂の量
が多く、その差別で陸地が造成さ
れ海岸線が前進していくのです。
分水の力の大きいことに驚くばか
りです。

年間平均どれ位の土砂を運んで
くるのかは計量しにくくはつき
りしませんが、現在分水路の左岸
右岸あわせて七〇〇ヘクタールの
土地が海面から顔を出している
といわれます。又、分水が海にそ
そぐ沖合に白波が立っている浅い
場所、年々遠浅になっていく中央
海水浴場、そして港湾を埋める流
入土砂の浚渫などが立証しており
ますように海中にあつて頭を出さ
ないでいる土砂の量を考えると莫

大もな土砂の量でしょう。
更に今は昔語りとなって、わか
らなくなるでしょうが六十年前の
海岸線と比較すると一層明瞭とな
りました。

野積浜の立岩は姿がよく、一幅
の絵として賞されていますが、海
中の岩が陸地に上つてしまいまし
た。車の走る道路が海で離れてい
たのです。雄釜雄釜の先にある米
が浜の砂浜もごく狭く番屋が山の
端にへばり着いていました。野積
の村は旧家並の裏まで海でした。
町部に入つてコロニー白岩の里の
管理棟の小高い丘の裾をまわり港
町から松沢町まで町並の浜手側の
家の裏まで波が寄せていました。

お祭でおみこし様の行列に出合
うと通行ができませんでした。火
事にでもなろうものなら逃げ場も
道もありません。舟で海へののがれ
ることも考えられました。だから
海と山に攻めたてられた狭い土地
を南北に一本の道路に沿っていた
のが町部だったのです。
今、町並の裏は波の心配はあり
ませんが、裏側に廻ると思いがけ
ない所に、コンクリートや石積み

の壁を発見できるのは波よけで
あり波とのたなかの産物の
です。

現在の海岸道路や海浜運動公
園コロニー白岩の里、寺泊魚横
丁、体育館、消防署、水族館な
どは全部が全部海の中だったの
です。ほんとに変われば変わったも
のです。

そして今も、分水は水と共に
土砂を運んでいるのです。眼を
みはるばかりです。他町村の人
たちが「寺泊はいいね。土地が
ふえるからね」と羨ましがると
もむりがないのです。

これらの土地の自然の景観や
土地利用については、あなたの
眼でおたしかめになってくださ
い。



昔は海の中にあつた野積立岩



一、特別児童扶養手当

この制度は心身に障害のある、
お子さんを、家庭で養育してい
る方に支給されます。
身体機能の障害や知恵おくれのた
めに法律で定める一級又は二級に
該当する重い障害がある二十歳未
満の障害児を養育されている方を
対象に国が支給するものです。
(二十歳をこえた場合は、障害福
祉年金の対象となります。)

二、児童扶養手当

父と生計を同じくしない児童を
養育されている方に支給されます
手当の対象児童は
(一)父母が婚姻を解消した児童。
(二)父母が死亡した児童。
(三)父が法に定められた障害の状態
にある児童。
(四)父が生死不明、遺棄、又は拘禁
(一年以上)等の状態にある児
童。

ただし受給者及び児童が公的年
金を受けているときは除かれます
手続その他詳細は住民課社会福
祉係までおたずね下さい。